

人権の大切さ

南部町立南部中学校二年 芦澤 那奈

私の祖父は障害者です。私が小学校六年生の時、突然脳内出血で倒れ、全身の左半分がほとんど動かすことのできない体になってしまいました。普段の生活は車イスです。これは、身体障害者二級にあたり、かなり重い障害です。祖父がこのような体になってしまったことで、私達家族は戸惑いや不安がありました。私も以前と違う祖父の姿を見ると、悲しくなりました。でもこのことで、私に「身体障害者の人権」について考えるきっかけを与えてくれました。

祖父が障害をもってからまず変わったのは「家」です。段差やトイレや洗面の入り口が狭く、車イスでは不便なので、大工の父がスロープを造ったり、トイレや洗面もリホームしました。リハビリのための手すりもあちらこちらにつけました。最初は手すりにつかまり歩くことができたのですが、高齢も重なり筋力も衰え、なかなか自分一人では立ち上がって動くことができなくなってきました。なので、日中と夜間は祖母が食事やトイレなどの世話をし、夕方や休日は父と母が手伝って介護をしています。

祖父のお風呂は、家族の手だけでは足りず、訪問入浴といって、週に二回、看護師さんと介護士さんとサポートの男性と二人が来て、お風呂に入れてくれます。入浴後の祖父はとても気持ち良さそうです。

また、週に一度は訪問リハビリで理学療法士の先生が来て、祖父の体の動かし方や指導などしてくれます。祖母は

「もっと、リハビリをして欲しい・・・」

と言いますが、南部町ではなかなか訪問サービスを受けられなくて、週に一回が限度なのだそうです。

それから、月に一度病院に通うのですが、その時は、父や伯母が連れて行きます。病院や公共施設は、障害者用の駐車場が整備されているのでありがたいと言っています。

しかし、雨が降っている時は、屋根のない所だと車イスを降ろし、祖父を車から乗移らせるのに大変なので、なかなか出掛けるのが嫌になってしまう、駐車スペース一つをとっても、屋根のある・なしではだいぶ変わるそうです。

またある時、祖父母が買い物に行った時の話です。駐車場の障害者スペース

がいっぱいだったので、他に空いているスペースに駐車しました。買い物の後、障害者スペースに車をおいた人を偶然見かけたのですが、あきらかに健常者だったそうです。障害者のための場所なのに、この人たちはどうして車をおいたのだろう、誰もが知っているはずなのに。そんなことを考えさせられたのは初めてでした。以前の私なら、障害者を見ても特に何も感じませんでした。けれど今は、障害者スペースを自分勝手に使う人を見たり、祖父以外の障害をもった人を見かけると、どうしてそんな身体になってしまったのだろう、とかどのようにして動くのだろうとか考えるようになりました。祖父が障害者になって、私は初めて他人の行動や、言葉が気になるようになったのです。

障害者の「人権」を考えるにあたり、祖父のように、自分の意志を口で伝える事ができる人はまだいい・・・上手く喋れない人、目の見えない人、他にも多くの障害をもった人たちがいます。どうやって意志を伝えるのかは、それぞれで、よく分かりませんが、人間として生きていくのは、皆同じだから、ひとりひとりの「人権」を尊重してあげたい。私がもし障害をもったら、優しくしてもらいたいし、何より人間として、尊重してもらいたいです。

「障害者や高齢者に優しい世の中」とよく言いますが、まだまだ環境の整備がされていない場所も多く、特に田舎は、障害者や高齢者のサービスも十分に行き届きません。私にできる事は今、何があるのか・・・と考えるとなかなか見つかりません。けれど、いつも相手の気持ちになって寄りそい考える事はできます。私が大人になった時、もっと世の中が変わって、障害者も高齢者も皆が住みやすい社会になっていたら嬉しいです。これから私にできることは何か、探していきたいと思います。